

「もっと神の恵みに感謝しよう！」

～私たちに与えられている神の恵みの豊かさを知る～

「いったい、あなたを偉くしているのは、だれなのか。あなたの持っているもので、もらっていないものがあるか。もしもらっているなら、なぜもらっていないもののように誇るのか。」

コリント人への第一の手紙4章7節

私たちは自分の人生を歩む時に、神の恵みを忘れがちになってしまいます。

ルカによる福音書17章で10人の重い皮膚病に悩む人々が登場します。そして、イエス様に癒しを求めます。そして、「祭司の所に行きなさい」とイエス様に言われます。祭司に見せるということは、その重い皮膚病が癒されたかどうかの診断をしてもらうためですから、イエス様のちからが表されて、その重い皮膚病が癒されるということを意味していました。ですから、彼らはイエス様があわれんで下さって、自分たちの病が癒されることを信じて出かけていきました。そして、その途中で完全に癒されて、祭司に癒しの宣言をしてもらい、それまで、伝染病患者として隔離されて生きていましたが、今度は解放されて、自由人として生きて行かれるようになりました。自分が癒され、解放され、自由人として生きて行くことができるようになった彼らは本当に喜びました。しかし、最初にイエス様にあわれんで、優しくしてもらったことを思い出して、わざわざ感謝の思いを伝えに戻って来た人物は10人中1人だけでした。そのことをイエス様はとて不思議に思いました。

私たちはどうでしょうか？ 私たちはそのように重い皮膚病、伝染病に悩まされているわけではありませんが、日々、様々な問題と闘っています。そして、時には主に祈り、毎日を過ごしています。特に、自分ではどうしようもないような問題、プレッシャーと闘わなければならないとき、気が進まない状況でも前に進んでいかなければならないとき、全く自信がなく、不安だらけのまま立ち向かっていくとき、私たちは主に祈ります。「主よ、わたしをあわれんでください」。すると、主は真実に私たちをあわれんで、大切に思って、豊かに助けてくださいます。その後は、私たちは喜んで、主の前に出て、感謝をお伝えします。毎週の礼拝はまさにその感謝を主に捧げるときです。自分の人生の中で、上手くいくことばかりではないと思いますが、すべての道で主を認め、歓迎し、そして、感謝をささげていくべきです。もっとも私たちは主体的に、感動をもって主を礼拝し、主に賛美を捧げ、感謝をお伝えするべきです。そうすれば、さらにもっとも主は私たちをあわれんで、恵みを注いでくださいます。

仕事や生活の中で、良いことがあったら、自画自賛するのではなく、謙遜にへりくだって、主の前に出るべきです。たとえ、良いことがなくても、日々生かされていることだけでも、偉大な神の奇跡であり、恵みです。決して当たり前ではありません。私たちは絶対的に神様への感謝が足りない者であると思います。

私たちは「アメイジング・グレイス」を賛美しますが、まさに、私たちが日々生かされていること自体が、「アメイジング・グレイス(驚くばかりのめぐみ)」なのです。

今週も大胆に主に祈り求め、挑戦し、そして、主を心から礼拝し、感謝をささげ、賛美をおささげしたいと願います。神様の豊かな祝福を祈ります！